

母校の生徒が活躍しなければ寂しい
し、かと云つて活躍すれば経費が掛り、
学校側、ご父兄の頭を痛めることになります。私の時代には無かつたことです。
生徒が活躍すればする程経費が嵩むわけ
で痛し痒しと言つたところです。加え
て、施設や用具の老朽化への対応もしな
ければならないようです。

同窓会費も潤沢ではない為、なかなか
思うような支援が出来ませんが、本年
は、サッカーゴールの買い替えに特別支
援をしました。

三年前から総会参加費に一部生徒活動
支援金を含んで徴収し、そこから毎年支
援金を拠出しています。しかしながら、
同窓会総会への出席者が少なく、思うよ



後輩の活動の力に —同窓生が出来ることは何か—

同窓会 会長 佐々木 博
(十二回生)

いつの頃からかは解らないが、現在のクラブ活動は体育系、文科系とともに「全国大会」という素晴らしい活躍の場が与えられています。一方では、その為に掛る経費負担が、学校や参加者の肩に重くのしかかっているのが現状のようです。当同窓会としても、小額ではあります
が、五年前から「生徒活動支援費」として予算化し、応援を続けています。

うにはいっていません。一人でも多くの同窓生が総会に出席することが、生徒の活動の支援に繋がっていくので、ぜひ友人を誘い合って出席して下さい。

同窓生が母校の為に、後輩の為に出来ることは何なのか。

それは、同窓会総会に出席することが「一番の応援」なのです。



サッカーゴール寄贈

東京
杉山臺

会報第7号
平成26年10月18日(土)
発行所
仙台市青葉区上杉6-7-1
上杉山中学校同窓会
発行責任者 佐々木 博

学校や満州国の建国大学教授を経て、昭和二十二年四月から二十三年十一月まで上中在職。その後、宮城県教育研究所長、新潟大学教授など歴任。「繰り返し生徒たちが心を一つにして歌う校歌を早く作りたい」と、岩手県に疎開中の童話作家で詩人の巽聖歌氏（童謡「たきび」の作詞者）を訪ね、作詞を依頼しました。その後、巽氏は来仙し、校長先生たちと近隣の台原付近を散策し、上杉界隈の雰囲気をつかまれました。その折、校長先生は「若木がすくすくと伸び、ついには空高く大木となつてそびえ立つ杉の大樹と生徒の姿を重ねたい」との願いを伝え、幾度かの修正を経て歌詞が完成し、仙台出身の福井文彦氏が曲をつけ、昭和二十九年十二月に校歌が誕生しました。昭和二十七年の五周年記念誌の中で千葉校長先

全校生徒の校歌合唱から始まります。美しい旋律と歌詞に描写された豊かな情景や青春時代のみずみずしい感性は、生徒だけでなく、私たち大人にも、学び続け成長しようという活力を与えていきます。さて、この素敵な校歌ですが、初代の千葉胤成校長先生は（心理学者。東北大
学・精神科の創建者）を歴任。名前

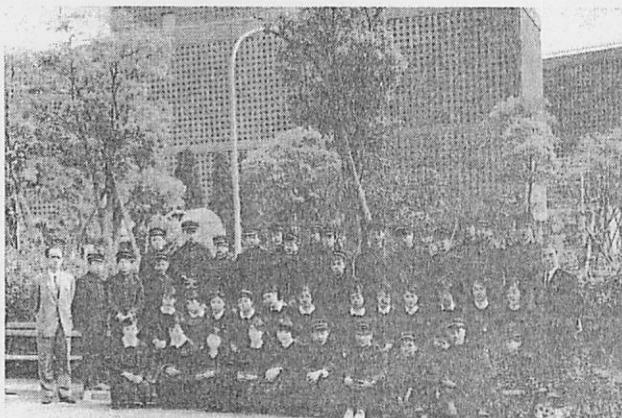
三年前の着任式、初めて校歌を聞いた時、その見事な三部合唱の響きと高らかに堂々と歌い上げる生徒たちの姿に、歴史と伝統の重みを感じ、感動しました。本校では、授業中は音楽室から、休み時間は廊下から、放課後は合唱部の部室から校歌が響いてきます。校内合唱祭は

生は「開校以来、敷地や校舎建設が遅れ、二部授業を余儀なくされたことに心を痛めた。しかし簡素ではあるが、わが上中の精神を象徴する快心の校歌がいち早く出来上がり、三百の若人の合唱が杉の大樹にこだまするのをきけたのがせめてもの慰めであった」と記されています。またある卒業生の方は「子どもの入学式に出席して晴れがましく校歌を歌うことが出来ました。歌い終わつた時に熱いものがこみ上げて、涙が出て来て困りました」と五十周年誌に寄稿されています。

者も一丸となり、校歌で歌い継がれていく建学の精神を継承すべく、頑張っておられます。このことを千葉校長先生はじめ諸先輩方にご報告できることを、私は誇りに思っております。

最後になりましたが、今年度、同窓会から最新のサッカーゴールを寄贈していただきました。大切に使用したいと思います。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

杉山中学校 校長 須藤由子



修学旅行(昭和44年)

B5版相当の横長の卒業アルバム。昭和四十五年三月に卒業した我々が手渡されたものだ。中扉の花の写真と木造校舎と体育館を捉えた遠景の二頁のみカラーで掲載され、その後は校長、PTA会長の写真、先生方、九クラス毎の集合写真、文化祭、修学旅行、部活などモノクロページが続く。

久しぶりに開いてみて、修学旅行の写真など後半部分は老眼鏡か拡大鏡がないときちゃんと見えないことが悲しい。歳六十、当時の両親、先生方の年齢をとづくに超えていることを考えれば当然といえば当然か。当時の集合写

五分の一の濃密

二十一回生 岡田 譲



真と、今現在の顔をそれぞれ拡大したものを作成して「この人は誰」なんていうコーナーを同窓会でやるもの一興かも。何年もご無沙汰していることが条件だけど一回くらいは遊べそう。

アルバムに残る表情は、自分を含めて結構ブーケ顔が多い。「何がそんなに不満なの?」とタイムマシンがあつたら聞いてみたい。「うつせなー」って返されるのがオチだろうけど……。私は入学当初の一年生の時、クラス写真も所有しているが、こちらは、まあブーケ顔も何人かいるが、着なれない制服に初々しさがにじむ。

胸ポケットには真新しい筆記用具。中には三本もさしている強者もいる。入学祝いには万年筆とか腕時計が定番の時代。昼食も毎日アルミに入った手弁当だったな……。「お父さん、お母さんありがとうございました」と素直に今なら言える。

当時、男子生徒は詰め襟学生服に学生帽、女子生徒は確か奨励服という名稱で校章の色違いで学年がわかるようになっていたはず。奨励服ということの戦いです。いかにミスなく確実に、最高の演技ができるかにかかる度も同じ技を練習します。

そして今年、愛媛県で開催の全国大会に二度目の出場が叶い、人生初の飛行機なのでドキドキしながら松山に行きました。中学校生活最後の全中大会、常に「笑顔」「平常心」を心掛け、悔いのないよう最後までひとつもなかつたというのが本音。制服はそんなに替えもなく、けつこうみん

なテカテカになるまで着続けていたよう気がする。おのずとズボンの股も裂けやすかつた。当たり前だけど卒業したのが十五歳。だから中学校三年間はその時の人

から十二年間、中学生やれといわれたら何て答えます?

一年連続全国大会出場

器械体操部 阿部 あすか



全国大会(平成26年8月)

つひとつ演技を全力で行いました。全国大会という貴重な場に二回も立てるのは、学校の先生方とPTAの方々のご理解とご協力があったからこそです。又、友達の応援、今まで指導して頂いたクラブのコーチや共に戦った仲間、家族、多くの人達のお蔭です。感謝の気持ちを忘れず、この経験を今後に生かしていくたいと思います。本当にありがとうございます。

平成25年度

**同
窓**

**会
総**

**会
報**

告

二十二回生 森 淳志



平成25年度同窓会

平成25年度同窓会の前に、還暦についての一考察ですが、還暦とは十干と十二支のそれぞれの順序の奇数番同士・偶数番同士の組み合わせで、干支で年を表現する記年法によれば六十年一巡となり、六十一年目（満六十）と同じ組合せに戻る、つまり暦が戻るから「還暦」と言われます。百済の僧侶「觀勤」の来日によって伝来したと言われております。干支表現で有名なのは、戊辰戦

争・辛亥革命などが有名ですが、高校野球の聖地の甲子園球場も「甲子」の年に出来たのでその名が付いたそうです。

さて報告ですが、いつものKKRホテル仙台で午前十一時から、第一部総会・第二部懇親会の流れで行いましたが、参加者は私達二十二回生の十五名を含めて四十名に留まり、少し寂しい同窓会となりました。と言うのも、夜に行つた二十二回生の還暦を祝う同期会には二名の先生を含めて六十八名も参加していましたので、当番年の動員数を増やせれば、もう少し盛り上がったかな!?と感じました。

同窓会総会は、次第に沿つて肃々と行われました。その後の懇親会では、須藤校長先生・坂口PTA会長からの祝辞の後、在校生の合唱部の美しい歌

平成二十五年十月十九日、還暦を迎える一九六九年卒業の二十回生が担当する同窓会を開催しました。

報告の前に、還暦についての一考察ですが、還暦とは十干と十二支のそれぞれの順序の奇数番同士・偶数番同士の組み合わせで、干支で年を表現する記年法によれば六十年一巡となり、六十一年目（満六十）と同じ組合せに戻る、つまり暦が戻るから「還暦」と言われます。百済の僧侶「觀勤」の来日によって伝来したと言われております。干支表現で有名なのは、戊辰戦



佐藤英郎先生



山岸先生



20回生同期会（昭和44年卒）

上中万歳!!

P.T.A会長 菅野敦子（三十一回生）

卒業の嬉しさと友人との別れの寂しさで涙してこの門から卒立つたのは、金八先生が大流行し、「巨人の王選手が引退、一億円が竹薮で発見!」そんな事があった昭和五十五年です。楽しい思い出を沢山作ってくれたこの上杉山中学校に考えてもいなかつた不思議な縁で今、PTA役員として携わる事が出来るのは有難い思いです。

そんな昭和五十五年卒の三十一回生

育館は今の男子テニスコート横の辺り、現在の体育館の場所は渡り廊下と武道館が、プール西側には技術家庭室がありました。校舎も増築前でしたので三十五年ぶりに訪れる同期生達は広く感じるのでしょうか。

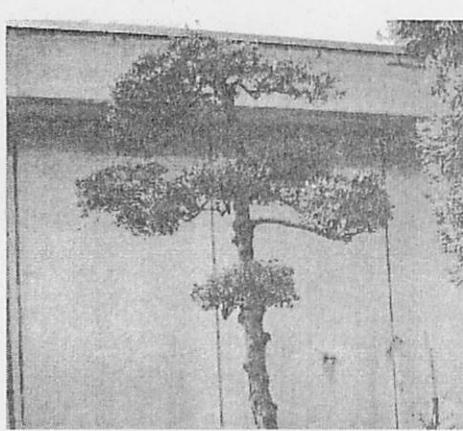
今年卒業する生徒達もいか学校を訪ねたくなるような中学生活を送れるよう

に同窓生としてPTA役員として尽力出来ればと思って居ります。上中万歳!!

声、吹奏楽部の素晴らしい音色に全員が聴き入っていました。上杉山中学校という同じ場所・空気を共有していた仲間が、世代を超えて集う同窓会を発展させる為にも、母校での開催を考える事も良いかな?なんて考えます。二十年程前に、高校のクラス担任が教壇を去る時に、母校の教

室で行つた特別授業には、クラスを超えて数多くの方が参加しました。これからも皆様で「我が母校・上杉山中学校」をサポートする同窓会を今後も発展させる為にも、会報をご覧になつた方々の声掛けが一番かと思います。これからも皆様で「我が母校・上杉山中学校」をサポートする同窓会であり続けましょう。

同窓会総会は、次第に沿つて肃々と行われました。その後の懇親会では、須藤校長先生・坂口PTA会長からの祝辞の後、在校生の合唱部の美しい歌



1回生記念植樹（黄楊の木）

上杉山中近況報告

教頭齋藤宏之

平成二十六年度は一学年五クラス、二学年五クラス、三学年四クラス、杉の子学級一クラス計十五クラス、生徒数四七五名でスタートしました。「未来に向かって、生き生きと心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を目標に、生徒・保護者・地域社会から信頼される学校を目指して教育活動を進めています。

さて、今年度もすばらしい伝統「上中魂」を受け継ぎ、文武両道で大活躍しています。学習面では真剣な眼差しで授業に取り組んでおり、仙台市標準学力検査、全国学力調査の結果にも上杉山中の学力の高さが伝統的に維持されています。



個人、柔道、水泳、体操の七つの部が県大会に出場しました。中でも、陸上三年女子一〇〇M、女子剣道個人、は東北大会へ、体操女子個人は、東北大会を勝ち抜き全国大会まで出場しました。

文化面では吹奏楽部が県大会で金賞を受賞しましたが、惜しくも東北大会出場は逃してしまいました。しかし、ホール一杯に素晴らしい演奏を響かせていました。これらの本校の活躍は、ホームページやブログ等に掲載していますのでご覧ください。

このように文武両道で活躍している上中生ですが、九月の大樹祭、十月の職場体験学習などの行事を通した人との関わりの中で人間的に更に成長していくため、今後ともご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

定期総会のご案内

定期総会は、毎年10月の第3土曜日に開催しています。

会場、時間についてはその年の当番幹事が決めます。当番幹事は、その年度に還暦を迎える回生が担当いたします。是非、お誘い合わせの上ご参加下さい。

上中ホームページのご案内

上中の最新情報が分かります。同窓会のコーナーもありますので、是非ご覧下さい。

[仙台市立上杉山中学校](#)

本誌題名「杉山臺」について

第四代仙台藩主綱村公は、東照宮から堤町の台地一帯に杉を植えて保護し「杉山臺」と称しました。城下の各街から武家屋敷を通つてこの杉山臺に向かう道を上下(かみしも)の位置により「上杉山通・中杉山通・杉山通」と呼称しました。これらの町名は二本杉通・光禪寺通など、及び北番丁とともに、江戸時代から昭和四十五年まで呼称されていた歴史ある町名です。

我が母校が所在する学区地域の歴史を振り返つてみたとき、校名とともに、現在に残る上杉の地名が生まれる根源となつてゐるにしえの地名「杉山臺」がそこにあるのです。

(一回生 芳賀)

本会報の題字は、前会長木皿謙氏の揮毫によるものです。

編集後記

卒業式に参列させていただき、校歌の場面で、当然の如く三部合唱で歌う生徒達に接し、上中生の底力を再認識いたしました。このような優れた素質を持った生徒達のために、同窓会として、サッカーゴールの寄贈を行い、生きたお金の使い方ができたことを大変嬉しく思います。又、同窓会総会において、在校生の演奏を聞くことができることは、同窓生の何よりの楽しみとなっています。

(十九回生 菅原)